

表 12.1.1-22(1)自動車の走行に係る大気質の予測結果(二酸化窒素)(計画路線の予測)

[単位：ppm]

番号	予測地点		予測値(年平均値)				日平均値 の年間 98%値	環境基準
			道路寄与 濃度	バックグ ラウンド 濃度	計	寄与率 (%)		
1	駒ヶ根市赤穂 (大田切)	東側	0.00014	0.006	0.00614	2	0.0171	1時間値 の1日平 均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾ ーン内又 はそれ以 下である こと。
2	宮田村大田切	西側	0.00016	0.006	0.00616	3	0.0171	
		東側	0.00016	0.006	0.00616	3	0.0171	
3	宮田村大久保	西側	0.00051	0.005	0.00551	9	0.0160	
4	宮田村中越	西側	0.00009	0.005	0.00509	2	0.0155	
5	伊那市下殿島	西側	0.00053	0.004	0.00453	12	0.0146	
		東側	0.00040	0.004	0.00440	9	0.0144	
6	伊那市原新田	西側	0.00070	0.003	0.00370	19	0.0132	
		東側	0.00073	0.003	0.00373	20	0.0133	

注1：計画路線及び既存道路からの道路寄与濃度は、道路敷地境界の地上1.5mにおける値である。

注2：環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年7月11日、環境庁告示第38号)による。

表 12.1.1-22(2)自動車の走行に係る大気質の予測結果(浮遊粒子状物質)(計画路線の予測)

[単位：mg/m³]

番号	予測地点		予測値(年平均値)				日平均値 の年間2% 除外値	環境基準
			道路寄与 濃度	バックグ ラウンド 濃度	計	寄与率 (%)		
1	駒ヶ根市赤穂 (大田切)	東側	0.00001	0.012	0.01201	0	0.0327	1時間値 の1日平 均値が 0.10mg/m ³ 以下であ ること。
2	宮田村大田切	西側	0.00001	0.012	0.01201	0	0.0327	
		東側	0.00001	0.012	0.01201	0	0.0327	
3	宮田村大久保	西側	0.00003	0.011	0.01103	0	0.0306	
4	宮田村中越	西側	0.00001	0.011	0.01101	0	0.0306	
5	伊那市下殿島	西側	0.00002	0.010	0.01002	0	0.0285	
		東側	0.00002	0.010	0.01002	0	0.0285	
6	伊那市原新田	西側	0.00002	0.011	0.01102	0	0.0306	
		東側	0.00002	0.011	0.01102	0	0.0306	

注1：計画路線及び既存道路からの道路寄与濃度は、道路敷地境界の地上1.5mにおける値である。

注2：環境基準は、「大気汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月8日、環境庁告示第25号)による。

表 12.1.1-23 (1) 自動車の走行に係る大気質の予測結果(二酸化窒素)

(既存道路の影響を考慮した予測)

[単位：ppm]

番号	予測地点		予測値 (年平均値)				日平均値 の年間 98%値	環境基準
			道路寄与 濃度	バックグ ラウンド 濃度	計	寄与率 (%)		
1	駒ヶ根市赤穂 (大田切)	東側	0.00054	0.006	0.00654	8	0.0175	1時間値 の1日平 均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾ ーン内又 はそれ以 下である こと。
2	宮田村大田切	西側	0.00019	0.006	0.00619	3	0.0171	
		東側	0.00019	0.006	0.00619	3	0.0171	
3	宮田村大久保	西側	0.00052	0.005	0.00552	9	0.0160	
4	宮田村中越	西側	0.00009	0.005	0.00509	2	0.0155	
5	伊那市下殿島	西側	0.00053	0.004	0.00507	10	0.0146	
		東側	0.00041	0.004	0.00481	9	0.0144	
6	伊那市原新田	西側	0.00076	0.003	0.00376	20	0.0133	
		東側	0.00079	0.003	0.00379	21	0.0133	

注1：計画路線及び既存道路からの道路寄与濃度は、道路敷地境界の地上1.5mにおける値である。

注2：環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年7月11日、環境庁告示第38号）による。

表 12.1.1-23 (2) 自動車の走行に係る大気質の予測結果(浮遊粒子状物質)

(既存道路の影響を考慮した予測)

[単位：mg/m³]

番号	予測地点		予測値 (年平均値)				日平均値 の年間 2% 除外値	環境基準
			道路寄与 濃度	バックグ ラウンド 濃度	計	寄与率 (%)		
1	駒ヶ根市赤穂 (大田切)	東側	0.00002	0.012	0.01202	0	0.0327	1時間値 の1日平 均値が 0.10mg/m ³ 以下であ ること。
2	宮田村大田切	西側	0.00001	0.012	0.01201	0	0.0327	
		東側	0.00001	0.012	0.01201	0	0.0327	
3	宮田村大久保	西側	0.00003	0.011	0.01103	0	0.0306	
4	宮田村中越	西側	0.00001	0.011	0.01101	0	0.0306	
		東側	0.00002	0.010	0.01005	0	0.0285	
5	伊那市下殿島	西側	0.00002	0.010	0.01005	0	0.0285	
		東側	0.00002	0.010	0.01004	0	0.0285	
6	伊那市原新田	西側	0.00003	0.011	0.01103	0	0.0306	
		東側	0.00003	0.011	0.01103	0	0.0306	

注1：計画路線及び既存道路からの道路寄与濃度は、道路敷地境界の地上1.5mにおける値である。

注2：環境基準は、「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48年5月8日、環境庁告示第25号）による。

(5) 予測結果

二酸化窒素の年平均値は、0.0056～0.0123ppm、浮遊粒子状物質の年平均値は、0.01023～0.01262mg/m³である。予測結果を表 12.1.4-8 (P12.1-88～89) に示す。

表 12.1.4-8(1)建設機械の稼働に係る大気質の予測結果(二酸化窒素)

[単位：ppm]

番号	予測地点	種別	ユニット	予測値 (年平均値)				日平均値の年間98%値	建設機械寄与濃度の参考値	環境基準
				建設機械寄与濃度	バックグラウンド濃度	計	寄与率 (%)			
1	駒ヶ根市赤穂(大田切)	掘削工	土砂掘削	0.0063	0.006	0.0123	51	0.024	0.004 ppm 以下	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
2	宮田村大田切	盛土工	盛土(路体・路床)	0.0053	0.006	0.0113	47	0.023		
3	宮田村大久保	盛土工	盛土(路体・路床)	0.0032	0.005	0.0082	39	0.019		
4	宮田村中越	掘削工	土砂掘削	0.0057	0.005	0.0107	53	0.022		
5	伊那市下殿島	盛土工	盛土(路体・路床)	0.0031	0.004	0.0071	44	0.017		
6	伊那市原新田	盛土工	盛土(路体・路床)	0.0026	0.003	0.0056	46	0.015		

注1：工事敷地境界（道路敷地境界）地上1.5mにおける値である。

注2：参考値は、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第714号」（平成25年3月 国土技術政策総合研究所）に示されている建設機械の稼働に係る二酸化窒素の濃度の参考値である。

注3：環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年7月11日、環境庁告示第38号）の環境基準である。

注4：着色部分は、参考値の超過を示す。

表 12.1.4-8(2) 建設機械の稼働に係る大気質の予測結果(浮遊粒子状物質)

[単位：mg/m³]

番号	予測地点	種別	ユニット	予測値 (年平均値)				日平均値 の年間 2% 除外値	建設機械 寄与濃度 の参考値	環境 基準
				建設機 械寄与 濃度	バッ クグ ラウ ンド 濃度	計	寄与率 (%)			
1	駒ヶ根市赤穂 (大田切)	掘削工	土砂掘削	0.00062	0.012	0.01262	5	0.034	0.009 mg/m ³ 以下	1 時間値 の1日 平均値が 0.10mg/m ³ 以下であ ることか つ1時間 値が 0.20mg/m ³ 以下であ ること。
2	宮田村大田切	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.00050	0.012	0.01250	4	0.033		
3	宮田村大久保	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.00026	0.011	0.01126	2	0.031		
4	宮田村中越	掘削工	土砂掘削	0.00051	0.011	0.01151	4	0.031		
5	伊那市下殿島	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.00023	0.010	0.01023	2	0.029		
6	伊那市原新田	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.00018	0.011	0.01118	2	0.031		

注1：工事敷地境界（道路敷地境界）地上1.5mにおける値である。

注2：参考値は、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第714号」（平成25年3月 国土技術政策総合研究所）に示されている建設機械の稼働に係る浮遊粒子状物質の濃度の参考値である。

注3：環境基準は、「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48年5月8日、環境庁告示第25号）の環境基準である。

表 12.1.4-11 (1)「排出ガス対策型建設機械の使用」による低減効果(二酸化窒素)

[単位：ppm]

番号	予測地点	種別	ユニット	予測値 (年平均値)				低減効果		建設機械寄与濃度の参考値
				建設機械寄与濃度	バックグラウンド濃度	計	寄与率 (%)	寄与率 (%)		
1	駒ヶ根市赤穂(大田切)	掘削工	土砂掘削	0.0028	0.006	0.0088	32	-0.0035	-28	0.004 ppm 以下
2	宮田村大田切	盛土工	盛土(路体・路床)	0.0022	0.006	0.0082	27	-0.0030	-27	
3	宮田村大久保	盛土工	盛土(路体・路床)	0.0012	0.005	0.0062	19	-0.0019	-24	
4	宮田村中越	掘削工	土砂掘削	0.0025	0.005	0.0075	33	-0.0032	-30	
5	伊那市下殿島	盛土工	盛土(路体・路床)	0.0012	0.004	0.0052	23	-0.0019	-27	
6	伊那市原新田	盛土工	盛土(路体・路床)	0.0010	0.003	0.0040	25	-0.0016	-29	

注：工事敷地境界（道路敷地境界）地上1.5mにおける値である。

表 12.1.4-11(2)「排出ガス対策型建設機械の使用」による低減効果(浮遊粒子状物質)

[単位：mg/m³]

番号	予測地点	種別	ユニット	予測値 (年平均値)				低減効果		建設機械寄与濃度の参考値
				建設機械寄与濃度	バックグラウンド濃度	計	寄与率 (%)	寄与率 (%)		
1	駒ヶ根市赤穂(大田切)	掘削工	土砂掘削	0.0002	0.012	0.0122	2	-0.00039	-3	0.009 mg/m ³ 以下
2	宮田村大田切	盛土工	盛土(路体・路床)	0.0002	0.012	0.0122	2	-0.00031	-2	
3	宮田村大久保	盛土工	盛土(路体・路床)	0.0001	0.011	0.0111	1	-0.00016	-1	
4	宮田村中越	掘削工	土砂掘削	0.0002	0.011	0.0112	2	-0.00031	-3	
5	伊那市下殿島	盛土工	盛土(路体・路床)	0.0001	0.010	0.0101	1	-0.00014	-1	
6	伊那市原新田	盛土工	盛土(路体・路床)	0.0001	0.011	0.0111	1	-0.00011	-1	

注：工事敷地境界（道路敷地境界）地上1.5mにおける値である。

(5) 予測結果

二酸化窒素の年平均値は 0.0032～0.0062ppm、浮遊粒子状物質の年平均値は 0.01100～0.01201mg/m³である。予測結果を表 12.1.5-5 (P12.1-107～108) に示す。

表 12.1.5-5(1) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る大気質の予測結果(二酸化窒素)

[単位：ppm]

番号	予測地点	予測値 (年平均値)					日平均値の年間 98% 値	工事用車両寄与濃度の参考値	環境基準
		工事用車両寄与濃度	既存道路の寄与濃度	バックグラウンド濃度	計	寄与率 (%)			
A	宮田村 5284-3 地先	0.00002	0.00015	0.006	0.0062	0	0.017	0.004ppm 以下	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること
B	宮田村 5610-1 地先	0.00001	0.00017	0.006	0.0062	0	0.016		
C	宮田村 6747-5 地先	0.00002	0.00003	0.005	0.0050	0	0.016		
D	伊那市東春近 4838 地先	0.00001	0.00009	0.005	0.0051	0	0.014		
E	伊那市東春近 8290 地先	0.00004	0.00016	0.003	0.0032	1	0.013		
F	伊那市東春近 7637-8 地先	0.00003	0.00014	0.003	0.0032	1	0.013		
G	伊那市美篤 10856 地先	0.00002	0.00039	0.003	0.0034	1	0.013		

注 1：工事用道路敷地境界の地上 1.5m における値である。

注 2：工事用車両寄与濃度は、予測地点に対する既存道路から新たに計画路線より付加される濃度を示す。

注 3：既存道路の寄与濃度は、予測地点に対する既存道路から付加される濃度を示す。

注 4：バックグラウンド濃度は、予測地域の一般環境濃度を示す。

注 5：参考値は、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第 714 号」（平成 25 年 3 月 国土技術政策総合研究所）に示されている建設機械の稼働に係る二酸化窒素の濃度の参考値である。

注 6：環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和 53 年 7 月 11 日、環境庁告示第 38 号）の環境基準である。

表 12.1.5-5(2) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る大気質の予測結果(浮遊粒子状物質)

[単位: mg/m³]

番号	予測地点	予測値 (年平均値)					日平均値の年間2%除外値 ※1	工事用車両寄与濃度の参考値※2	環境基準
		工事用車両寄与濃度	既存道路の寄与濃度	バックグラウンド濃度	計	寄与率(%)			
A	宮田村 5284-3 地先	0.000001	0.000009	0.012	0.01201	0	0.033	0.009mg/m ³ 以下	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。
B	宮田村 5610-1 地先	0.000001	0.000009	0.012	0.01201	0	0.031		
C	宮田村 6747-5 地先	0.000002	0.000002	0.011	0.01100	0	0.031		
D	伊那市東春近 4838 地先	0.000001	0.000004	0.011	0.01100	0	0.029		
E	伊那市東春近 8290 地先	0.000002	0.000005	0.011	0.01101	0	0.031		
F	伊那市東春近 7637-8 地先	0.000001	0.000005	0.011	0.01101	0	0.031		
G	伊那市美篤 10856 地先	0.000001	0.000013	0.011	0.01101	0	0.031		

注1: 工事敷地境界(道路敷地境界)地上1.5mにおける値である。

注2: 工事用車両寄与濃度は、予測地点に対する既存道路から新たに計画路線より付加される濃度を示す。

注3: 既存道路の寄与濃度は、予測地点に対する既存道路から付加される濃度を示す。

注4: バックグラウンド濃度は、予測地域の一般環境濃度を示す。

注5: 参考値は、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第714号」(平成25年3月 国土技術政策総合研究所)に示されている建設機械の稼働に係る浮遊粒子状物質の濃度の参考値である。

注6: 環境基準は、「大気汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月8日、環境庁告示第25号)の環境基準である。